

タンクエリアにおける雨水対策

～タンク設置エリアにおいて、下記の雨水対策を重層的に実施～

- タンクエリアの堰内に溜まった雨水は、回収タンクなどに貯留後、必要に応じて処理し、基準値を満たすことを確認した後に散水。
- タンクエリアの堰については、雨樋、堰カバーを設置し雨水の浸入を防止するとともに、堰の嵩上げ、二重化（内堰・外堰）を実施。
- 雨量が多いと想定される際には、事前に態勢を整えた上で、降雨前後に回収タンク・堰間移送などを実施。

タンクエリア間の雨水移送・雨水処理設備の配備（外に出さない）



（雨水移送設備）



（雨水処理設備）

タンク雨樋の設置（汚染源に近づけない）

- タンク天端周囲に金属製の横樋を取り付ける。
- 雨樋にて雨水を集合させ、排水管でコンクリート堰外へ排水する。

【対策実施前（Gエリア）】



（平成25年11月撮影）

【対策実施後（Gエリア）】



全景



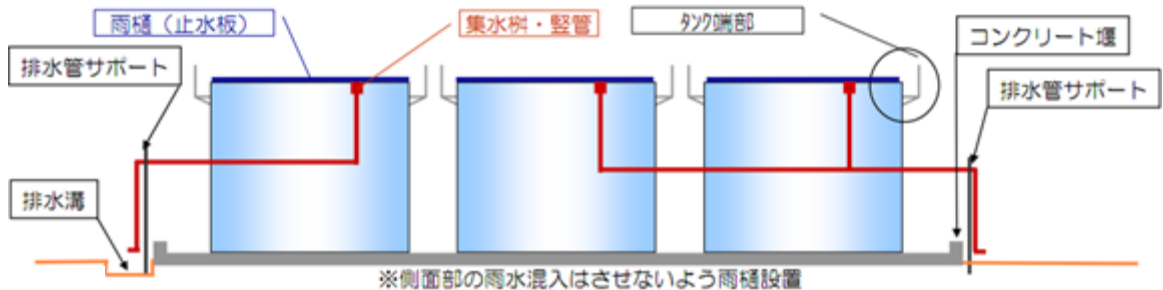
雨樋



排水管

（平成26年7月撮影）

【イメージ図】



金属製雨樋設置イメージ



堰カバーの設置（汚染源に近づけない）

■ 堰内に単管など（H3～4m程度）を構築し、堰カバー（屋根材）を設置。

【対策実施前（B北エリア）】

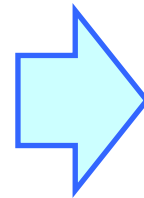
【対策実施後（B北エリア）】



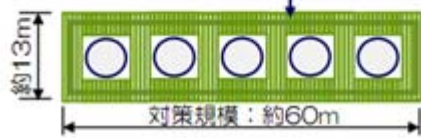
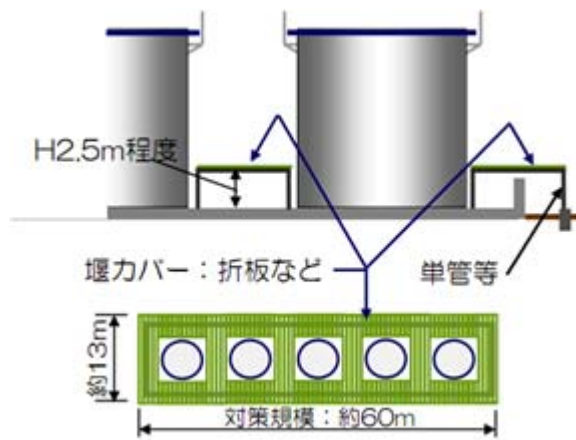
（平成26年1月撮影）



（平成26年7月撮影）



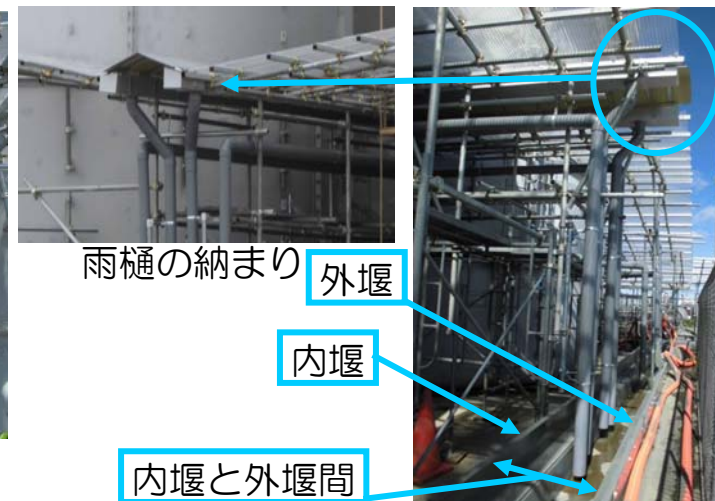
【イメージ図】



平面イメージ



施工後の様子



排水管により内堰外へ排水

堰のかさ上げ・二重化（外に出さない）

【対策実施前（H4エリア）】



（平成25年8月撮影）

【対策実施後（H4エリア）】



（平成26年6月撮影）



【イメージ図】

